



## セキュリティと資格情報の管理 SnapManager Oracle

NetApp  
October 04, 2023

This PDF was generated from [https://docs.netapp.com/ja-jp/snapmanager-oracle/windows/concept\\_what\\_user\\_authentication\\_is.html](https://docs.netapp.com/ja-jp/snapmanager-oracle/windows/concept_what_user_authentication_is.html) on October 04, 2023. Always check docs.netapp.com for the latest.

# 目次

セキュリティと資格情報の管理 .....	1
ユーザ認証とは .....	1
カスタムスクリプト用に暗号化されたパスワードを保存する .....	2
リポジトリへのアクセスを許可する .....	2
プロファイルへのアクセスの許可 .....	3
ユーザクレデンシャルの表示 .....	3
すべてのホスト、リポジトリ、およびプロファイルのユーザ・クレデンシャルの消去 .....	4
個々のリソースのクレデンシャルを削除する .....	5

# セキュリティと資格情報の管理

SnapManager では、ユーザ認証を適用してセキュリティを管理できます。ユーザ認証方式を使用すると、リポジトリ、ホスト、プロファイルなどのリソースにアクセスできます。

コマンドラインインターフェイス（CLI）またはグラフィカルユーザインターフェイス（GUI）を使用して処理を実行すると、SnapManager はリポジトリおよびプロファイルに設定されているクレデンシャルを取得します。SnapManager は以前のインストールのクレデンシャルを保存します。

リポジトリとプロファイルは、パスワードで保護できます。クレデンシャルとは、ユーザがオブジェクト用に設定したパスワードであり、パスワードはオブジェクト自体には設定されません。

認証とクレデンシャルを管理するには、次のタスクを実行します。

- ユーザ認証を管理するには、処理時にパスワードプロンプトを使用するか、`smo credential set` コマンドを使用します。

リポジトリ、ホスト、またはプロファイルのクレデンシャルを設定する

- アクセスできるリソースを制御するクレデンシャルを表示します。
- すべてのリソース（ホスト、リポジトリ、およびプロファイル）について、ユーザのクレデンシャルをクリアします。
- 個々のリソース（ホスト、リポジトリ、およびプロファイル）に対するユーザのクレデンシャルを削除する。



リポジトリ・データベースが Windows ホスト上にある場合、ローカル・ユーザまたは管理者ユーザとドメイン・ユーザの両方に同じクレデンシャルが必要です。

## ユーザ認証とは

SnapManager は、SnapManager サーバが実行されているホストでオペレーティングシステム（OS）ログインを使用してユーザを認証します。ユーザ認証を有効にするには、処理時にパスワードのプロンプトを使用するか、`smo credential set` コマンドを使用して、ユーザ認証を有効にします。ユーザ認証には、パスワードのプロンプトを使用するか、`smo credential set` コマンドを使用します。

ユーザ認証の要件は、処理を実行する場所によって異なります。

- SnapManager クライアントが SnapManager ホストと同じサーバ上にある場合は、OS のクレデンシャルによって認証されます。

SnapManager サーバが実行されているホストにすでにログインしているため、パスワードの入力は求められません。

- SnapManager クライアントと SnapManager サーバが異なるホスト上にある場合、SnapManager は両方の OS クレデンシャルを使用してユーザを認証する必要があります。

SnapManager ユーザクレデンシャルキャッシュに OS クレデンシャルを保存していない場合、SnapManager は処理のためのパスワードの入力を求めます。smo credential set -host コマンドを入力した場合は、SnapManager クレデンシャルキャッシュファイルに OS クレデンシャルを保存するため、SnapManager は処理のためのパスワードの入力を求めません。

SnapManager サーバで認証されている場合は、有効なユーザとみなされます。すべての処理の実効ユーザは、処理が実行されるホストの有効なユーザアカウントである必要があります。たとえば、クローニング処理を実行する場合は、クローンのデスティネーションホストにログインする必要があります。



SnapManager for Oracle では、LDAP や ADS などの中央 Active Directory サービスで作成されたユーザの許可が失敗することがあります。認証が失敗しないようにするには、設定可能な auth.disableServerAuthorization を true に設定する必要があります。

実効ユーザとして、次の方法でクレデンシャルを管理できます。

- 必要に応じて、SnapManager ユーザクレデンシャルファイルにユーザクレデンシャルを格納するように SnapManager を設定することができます。

デフォルトでは、SnapManager にはホストクレデンシャルは格納されません。たとえば、リモートホストへのアクセスを必要とするカスタムスクリプトがある場合などに、この変更が必要になることがあります。リモートクローニング処理は、リモートホストのユーザのログインクレデンシャルが必要な SnapManager 処理の例です。SnapManager がユーザ・ホストのログイン・クレデンシャルを SnapManager ユーザ・クレデンシャルのキャッシュに保存するようにするには、smo .config ファイルで host.credentials" プロパティを true に設定します。

- リポジトリへのユーザ・アクセスを許可できます。
- プロファイルへのユーザアクセスを許可できます。
- すべてのユーザクレデンシャルを表示できます。
- すべてのリソース（ホスト、リポジトリ、およびプロファイル）について、ユーザのクレデンシャルを消去できます。
- 個々のリソース（ホスト、リポジトリ、およびプロファイル）のクレデンシャルを削除できます。

## カスタムスクリプト用に暗号化されたパスワードを保存する

デフォルトでは、SnapManager はホストクレデンシャルをユーザクレデンシャルキャッシュに格納しません。ただし、これは変更できます。smo .config ファイルを編集して、ホストのクレデンシャルを保存することができます。

smo .config ファイルは、<default installation location >\properties\smo.config にあります

1. smo .config ファイルを編集します。
2. host.credential.persist を true に設定します。

## リポジトリへのアクセスを許可する

SnapManager を使用すると、データベースユーザがリポジトリにアクセスするためのクレデンシャルを設定できます。クレデンシャルを使用すると、SnapManager ホスト、

リポジトリ、プロファイル、およびデータベースへのアクセスを制限したり、禁止したりできます。

credential set コマンドを使用してクレデンシャルを設定する場合、SnapManager はパスワードの入力を求めません。

ユーザクレデンシャルは、SnapManager 以降のインストール時に設定できます。

1. 次のコマンドを入力します。

```
smo credential set -repository -dbname repo_service_name -host repo_username repo_username [-password repo_password] -port repo_port
```

## プロファイルへのアクセスの許可

SnapManager では、プロファイルのパスワードを設定して、不正なアクセスを防止できます。

1. 次のコマンドを入力します。 smo credential set -profile -name profile\_name [-password password]
  - 関連情報 \*

smo credential set コマンドです

## ユーザクレデンシャルの表示

アクセス可能なホスト、プロファイル、およびリポジトリをリスト表示できます。

1. アクセスできるリソースを一覧表示するには、次のコマンドを入力します。 smo credential list

### ユーザクレデンシャルの表示例

次の例は、アクセス可能なリソースを表示します。

```
smo credential list
```

```
Credential cache for OS user "user1":
Repositories:
Host1_test_user@SMOREPO/hotspur:1521
Host2_test_user@SMOREPO/hotspur:1521
user1_1@SMOREPO/hotspur:1521
Profiles:
HSDBR (Repository: user1_2_1@SMOREPO/hotspur:1521)
PBCASM (Repository: user1_2_1@SMOREPO/hotspur:1521)
HSDB (Repository: Host1_test_user@SMOREPO/hotspur:1521) [PASSWORD NOT SET]
Hosts:
Host2
Host5
```

• 関連情報 \*

[smo credential list コマンド](#)

## すべてのホスト、リポジトリ、およびプロファイルのユーザ・クレデンシャルの消去

リソース（ホスト、リポジトリ、およびプロファイル）のクレデンシャルのキャッシュをクリアできます。これにより、コマンドを実行しているユーザのリソースクレデンシャルがすべて削除されます。キャッシュをクリアしたら、クレデンシャルを再度認証して、これらのセキュアなリソースにアクセスできるようにする必要があります。

1. クレデンシャルを消去するには、SnapManager CLI で `smo credential clear` コマンドを入力するか、SnapManager GUI から \* Admin \* > \* Credentials \* > \* Clear Cache \* を選択します。
2. SnapManager GUI を終了します。

注

- SnapManager GUI からクレデンシャルキャッシュをクリアした場合は、SnapManager GUI を終了する必要はありません。
  - SnapManager CLI からクレデンシャルキャッシュをクリアした場合は、SnapManager GUI を再起動する必要があります。
  - 暗号化されたクレデンシャルファイルを手動で削除した場合は、SnapManager GUI を再起動する必要があります。
3. クレデンシャルを再度設定するには、同じプロセスを繰り返して、リポジトリ、プロファイルホスト、およびプロファイルのクレデンシャルを設定します。ユーザクレデンシャルを再度設定する追加情報の場合は、「クレデンシャルキャッシュをクリアしたあとのクレデンシャルの設定」を参照してください。
- 関連情報 \*

[smo credential clear コマンド](#)

## クレデンシャルキャッシュをクリアしたあとにクレデンシャルを設定

キャッシュをクリアして格納されているユーザクレデンシャルを削除したら、ホスト、リポジトリ、およびプロファイルのクレデンシャルを設定できます。

リポジトリ、プロファイルホスト、およびプロファイルには、以前に指定したのと同じユーザクレデンシャルを設定する必要があります。ユーザクレデンシャルの設定時に暗号化されたクレデンシャルファイルが作成されます。

クレデンシャルファイルは、C : \Documents and Settings\Administrator\Application Data\NetApp\smo \3.3.0 にあります。

SnapManager GUI（グラフィカルユーザーインターフェース）で、リポジトリにリポジトリがない場合は、次の手順を実行します。

1. 既存のリポジトリを追加するには「[タスク >] → [既存のリポジトリの追加]」をクリックします
2. リポジトリのクレデンシャルを設定するには、次の手順を実行します。
  - a. リポジトリを右クリックし「[\* 開く \*]」を選択します
  - b. Repository Credentials Authentication ウィンドウで、ユーザクレデンシャルを入力します。
3. ホストのクレデンシャルを設定するには、次の手順を実行します。
  - a. リポジトリの下のホストを右クリックし「[Open]」を選択します
  - b. Host Credentials Authentication ウィンドウで、ユーザクレデンシャルを入力します。
4. プロファイルのクレデンシャルを設定するには、次の手順を実行します。
  - a. ホストの下のプロファイルを右クリックし、\* 開く \* を選択します。
  - b. [Profile Credentials Authentication] ウィンドウで、ユーザクレデンシャルを入力します。

## 個々のリソースのクレデンシャルを削除する

プロファイル、リポジトリ、ホストなど、いずれかのセキュアなリソースのクレデンシャルを削除できます。これにより、すべてのリソースについてユーザのクレデンシャルを消去するのではなく、1つのリソースについてのみクレデンシャルを削除することができます。

• 関連情報 \*

[smo credential delete コマンド](#)

### リポジトリのユーザクレデンシャルを削除します

クレデンシャルを削除して、ユーザが特定のリポジトリにアクセスできないようにすることができます。このコマンドでは、すべてのリソースについてユーザのクレデンシャルを消去するのではなく、1つのリソースについてのみクレデンシャルを削除できます。

1. ユーザのリポジトリクレデンシャルを削除するには、次のコマンドを入力します。 `smo credential delete`

`-repository -dbnamerepo_service_name -hostreppo_host -login -usernamerepo_username -portrepo_port`

## ホストのユーザクレデンシャルを削除する

ホストのクレデンシャルを削除して、ユーザがアクセスできないようにすることができます。このコマンドでは、すべてのリソースについてユーザのクレデンシャルをすべて消去するのではなく、1つのリソースについてのみクレデンシャルを削除できます。

1. ユーザのホストクレデンシャルを削除するには、次のコマンドを入力します。 `smo credential delete -host -name host_name -username USERNAME`

## プロファイルのユーザクレデンシャルを削除する

プロファイルのユーザクレデンシャルを削除して、ユーザがアクセスできないようにすることができます。

1. ユーザのプロファイルクレデンシャルを削除するには、次のコマンドを入力します。 `smo credential delete -profile -NameProfile_name`



## 著作権に関する情報

Copyright © 2023 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。